平成２９年 １２ 月２２ 日

平成２９年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 瑞穂野中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成２９年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

平成29年4月18日(火)

3　調査対象

小学校　第６学年（国語Ａ・Ｂ，算数Ａ・Ｂ，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語Ａ・Ｂ，数学Ａ・Ｂ，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①	国語Ａ	９６	人	国語Ｂ	９６	人
②	数学Ａ	９６	人	数学Ｂ	９６	人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており，実施教科が国語，数学の２教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

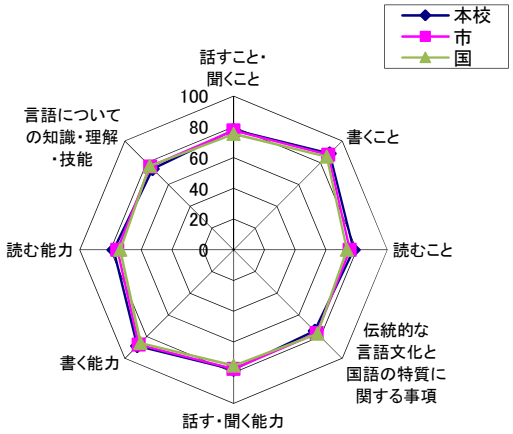
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立瑞穂野中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

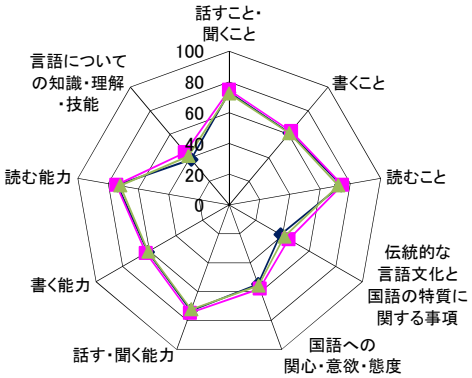
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	77.9	77.6	75.4
	書くこと	88.5	87.3	85.7
	読むこと	78.1	75.6	73.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.7	76.6	77.2
観点	国語への関心･意欲･態度			
	話す･聞く能力	77.9	77.6	75.4
	書く能力	88.5	87.3	85.7
	読む能力	78.1	75.6	73.8
	言語についての知識･理解･技能	74.4	76.6	77.2



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと･聞くこと	73.3	74.8	72.4
	書くこと	61.2	62.6	60.8
	読むこと	74.0	74.6	72.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	38.5	44.7	41.4
観点	国語への関心･意欲･態度	54.9	58.0	55.9
	話す･聞く能力	73.3	74.8	72.4
	書く能力	61.2	62.6	60.8
	読む能力	74.0	74.6	72.1
	言語についての知識･理解･技能	38.5	44.7	41.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

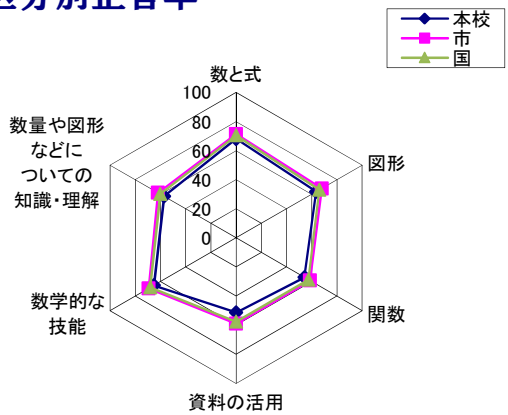
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○国語Aにおける「目的に応じて資料を効果的に活用して話す」問題に対する正答率は約93%と非常に高い。 ●国語A、国語Bとも「相手にわかりやすく伝える工夫」に関する正答率が、約57%と他の質問の正答率と比べ低い。	・授業において、ペアやグループでの話合いや、意見発表など様々な場面を設定した言語活動を多く取り入れる。 ・話したり聞いたりする、相手、場面、目的を意識して、効果的な話し方や聞き取りができる力を身に付けるための場を増やす。
書くこと	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○国語Aの各質問の正答率は8割以上と高く、語句の使い方、表現の工夫など基礎的な力は身に付いている。 ●国語Bの「比喩に注目し、自分の考えを書く」質問の正答率は38%と国や市より3ポイント程度低い。また、無答率が約18%ある。	・記述式の設問になると無回答率が高くなる。書くことに抵抗のある生徒を減らすため、書く機会を意識的に増やし、選べるだけでなく、自分で考えて書くことができる力を育てる。 ・読むことの授業とも関連させ、文章の構成を意識したり、効果的な表現を身に付けさせる。
読むこと	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○詩の表現に関する質問は正答率が9割と高い。人物の言動からの内容理解や、目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率は、国や市より3ポイント以上高い。 ●表現や場面の展開から内容を読み取る問題の正答率が国や市より約3ポイント低い。	・文章を読み取るための基礎となる語彙力を高めるため、辞書の活用を習慣化させる。 ・読み取る際の裏付けとなる、表現や人物の言動などのポイントを明確にした授業の展開を行う。 ・読解力につながる読書指導を今後も継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語A、国語Bにおける領域の平均正答率は、全国や市の平均よりも低い。 ○漢字の読みは正答率が9割以上と高い。古文の設問は2問とも約8割の正答率であった。 ●漢字の書きや適切な語句の選択では、問題により正答率に差があり、国や市の平均と比べ10ポイント近く低いものもあった。	・文法など学習した知識を定着させるため、復習の機会の設定や、知識が曖昧な生徒の個別支援を行う。 ・漢字は小テストを定期的に実施するなど、生徒自身が継続して学習に取り組む姿勢を育成する。 ・語句については、単なる言葉の意味ではなく、文脈の中で用いられている意味を意識させる。また、自らの文章で使うことができるよう、短文作りなどを取り入れる。

宇都宮市立瑞穂野中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

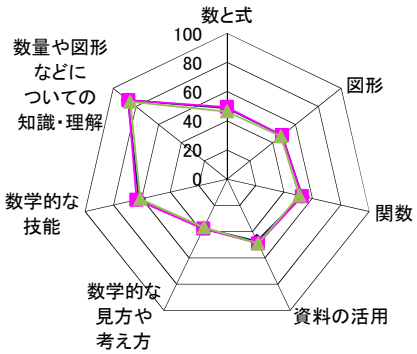
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.1	71.4	70.4
	図形	63.5	67.9	66.0
	関数	54.2	58.6	57.4
	資料の活用	51.3	58.9	57.6
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	65.2	69.3	68.2
	数量や図形などについての知識・理解	57.2	61.9	60.2



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	48.6	49.4	46.3
	図形	48.3	48.3	47.1
	関数	52.8	52.7	50.8
	資料の活用	47.2	49.0	49.1
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	37.5	37.8	36.8
	数学的な技能	62.2	63.7	61.2
	数量や図形などについての知識・理解	87.0	86.7	85.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	数学Aにおける領域の平均正答率は、全国、市ともに少し下回っているがBにおける平均正答率は少し上回っている。 ○6角形をつくるために必要なストローの数をnを用いた式で表すことは県、全国ともに平均正答率を上回った。	・基本的な計算力や知識の定着を目指した繰り返しの学習をより強化していくとともに、理解の遅い生徒に対してTTでのサポートを継続して行っていく。 ・過去に学習した内容の定着を目指して、計算プリントや小テスト等を利用して生徒に復習の機会を積極的に与えていく。
図形	数学Aにおける領域の平均正答率は、全国、市」ともに少し下回っているがBにおける平均正答率は少し上回っている。 ○数学Bの図形の対称性を問う問題は県、全国の正答率を5ポイント程上回った。 ●円柱の体積を求めたり錯角の意味を問う問題など知識理解の観点が県、全国の正答率を7～8ポイント下回っており、知識を確実に積み重ねていくことに課題が見られる。	・図形の基本性質を定着させるために、短答式の問題を数多く繰り返し解く場面を設定していく。 ・授業の中で説明し合ったり、教え合ったりする言語活動の時間を積極的に設け、説明や証明といった言葉の問題に対する苦手意識を克服していくようにしていく。 ・複雑な問題を解決する力も身につけられるよう、必要に応じて習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導を充実させていく。
関数	数学Aにおける領域の平均正答率は、全国、市」ともに少し下回っているがBにおける平均正答率は少し上回っている。 ○与えられた表やグラフから必要な情報を読み取ることは93%の正答率があり、県全国の正答率を上回った。 ●比例の式に代入して答えを得る問題やグラフから式を求める問題など県全国の正答率を5～6ポイント下回った。	・苦手意識を減少させるために、身近な例と関連付けて、興味・関心を持たせながら、基礎知識の習得と理解を深めさせる。 ・複雑な問題を解決する力も身につけられるよう、必要に応じて習熟度別学習を取り入れ、個に応じた指導を充実させていく。
資料の活用	数学A，Bにおける領域の平均正答率は、全国、市」、ともに下回っている。特にAでは6ポイント強下回った。 ○資料から必要な情報を読み取る問題は80%以上の正答率が得られた。 ●度数分布表から相対度数を求める問題は12%以上も下回っており、確率全般での学力の定着に課題が見られる。	・用語の意味を定着させるために、練習問題を多く得活動を授業に取り入れていく。 ・確率の有用性を感じ、興味を深めるために、いろいろな場面での確率の活用例を授業の中で取り入れられるようにする。

宇都宮市立瑞穂野中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合が97.9%（当てはまるとの回答84.4%）であった。また、「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」と回答している生徒が、86.5%いて、全国・県を10ポイント以上上回っている。これは、夢や目標を持ちながら、特別活動、学校行事や部活動などを通して最後まで粘り強くものごとに取り組み、成功体験を重ね成長している姿がうかがえる。

○「自分にはよいところがある」と回答している（当てはまる、どちらかといえば当てはまる）生徒の割合が77%であり、当てはまると答えた生徒の割合は全国を7ポイント、県を10ポイント以上上回っている。これは市が進める「宮っこ心の教育」を進めたり、特別活動においてエンカウンターなどを行ったりした結果、認め合い、励まし合いながら自己肯定感が高い生徒の育成につながっていると考えられる。今後もあらゆる教育活動において認め合い、励まし合う活動を重視し推進していきたい。

○「自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」割合が全国・県よりも7ポイント以上高いので、家庭学習をする習慣が身についてきている。これは学校で取り組んでいる自主学習ノートを活用している成果の表れでもあると考えられる。今後も継続して取り組んでいきたい。

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」と回答した生徒はいずれも県、全国より10ポイント以上高くボランティア活動に積極的に参加した経験がある生徒は84%以上いる。このことから地域、社会の一員として貢献しようとする意識が高い。

●普段（月～金曜日）に、「１日あたりどのくらいの時間勉強しますか」の回答は県、全国の回答より6ポイント以上低い。これは宿題など決められたことはやるが、それ以外の勉強時間は短いということで、今後学習の質を高めながら、時間をいかに確保していくか、指導者側の課題と思われるので、自主学習ノートやスタンダードテストなど現在取り組んでいる学習を活かしながら考えていきたい。

宇都宮市立瑞穂野中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自主学習ノートの作成（家庭学習の充実と継続をめざして）	・毎日、必ず大学ノート1P分の学習を家でやってくる。	・「自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の宿題をしている」割合が全国、県よりも7ポイント以上高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語AB、数学ABともに問題を解く時間が十分ではなかったと回答する生徒が県、全国に比べ4～8ポイント多い→問題を理解し手際よく解いていくことができない。また普段の学習の質を上げていくことが肝要である。	・問題の意味を理解し、速く正確に解けるようにする。 ・自主学習ノートの質を上げる。	・数学などの豆テストを時間を決めて継続実施し、速く正確に解く練習をするなど。 ・漢字練習や簡単な計算などの安易にできるものから文章題の立式など考えて学習するものへ高めていく。